

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

宗教学法人カトリック福岡司教区 八幡カトリック幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の愛の精神に基づき、幼児一人ひとりがかけがえのない存在として人格を尊重し、モンテッソーリ教育によりあらゆる活動を通して自主自立を養い、円満で調和のとれた人格形成を援助する。

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

「ひとりひとりのいいところ」
～ 個性があるってすばらしい～

友だちと共に過ごす中で、ひとりひとりが持っているいいところに気付き互いに認め合うことができる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
安全管理	A	登降園システムの導入や門の電気錠取り付け等、園における安全管理の対応と教員の意識付けができた。
個性の尊重 互いに認め合う	A	縦割保育での異年齢の交流やお互いの違いを話し合ったり認め合ったりしながら、理解を深めることができた。
保護者、 地域への対応	B	ホームページの充実をはかり、連絡帳等を通して家庭との連絡を密にしてきたが、地域への発信がまだ足りず開かれた園になっていない。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
A	全職員が園の方針を理解し、キリスト教の精神とモンテッソーリ教育を通して幼児一人ひとりに目を向け、自主自立の援助を行なうことに努めることができた。又、縦割保育を通して思いやりの心や互いに認め合う心を培うことができた。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
幼少連携	小学校との接続カリキュラムにおいてまだ連携が不足しているので今後取り入れていきたい。
地域との連携	地域に開かれ愛される園を目指すために、又、どのような園か知ってもらう為に園の事を発信していけるよう検討する。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- 教育理念などよりも保護者にとって直接的なメリットに比重を置いたような園も多い中、子どもと保護者とのつながりをとても大切にしている稀有な園だと感じます。また、縦割保育によって年齢差のある子ども達が、自主的にお互いを気にかけて、頼り、助け合うという関係性が自然に形成されており、今後の学校生活においても真に役に立つ成長ができていると思います。

委員会実施日

令和7年3月13日